

# 有限会社上村塗装工業所



具体的なデザインや  
仕様書がなく、  
簡単なイラストだけのオーダーも。

漆塗り職人だった祖父が、1923年に自転車の漆塗り塗装をはじめ、80年以上の間、経験と技術を積み重ねてきました。自転車産業が活況だったころは、堺の自転車メーカーから1日100台、200台ものフレームが送られてくることも。今は大量生産ではなく、フレームひとつひとつをハンドメイドで丁寧に塗装していきます。

自転車専門の塗装工場は、関西ではうちを含め2社しかないんです。うちは家族や親族ばかり7人でやっています。レース用は時期には関係ないですが、個人の注文は春からロードできるよう冬場の注文がピーク。機械ではできず手間もかかるので、大手企業が参入できない分野なんです。うちはフレーム塗装だけですが、それが自転車として完成したものを写真に撮って送ってくださるお客様も。完成車を見るのが何よりうれしいです。

**代表取締役  
上村和彦さん**

注文はすべて完全オーダー。  
競輪用の自転車だけでなく、  
一般の方の自転車でも受け付けている。



このフレームは、  
最新のデザインで、  
カラーもオーダーできます。  
最新のデザインで、  
カラーもオーダーできます。

最近のフレームは、  
派手な色や  
デザインものがトレンド。



一台一台の特注品なので手作業で  
丁寧に仕上げています。

金属を磨いてきれいに  
する下地処理で、発色の  
良さが変わります。



レース車は1日に1台しか作れません。  
自転車の塗装は、  
他の塗装と違って、  
乾燥時間がかかるので、  
作業が遅いです。

最新のデザインで、  
カラーもオーダーできます。  
最新のデザインで、  
カラーもオーダーできます。

競輪用の自転車は、  
「レース」用の自転車は、  
最新のデザインで、  
カラーもオーダーできます。

最新のデザインで、  
カラーもオーダーできます。  
最新のデザインで、  
カラーもオーダーできます。



軽量化が特徴のカーボン素材のフレームが増えている。  
カーボンは金属ではないので、今までのやり方や  
塗料のままで塗装できない。  
フレームの素材ごとに、塗装方法も変えていく。

**80代の超ベテラン  
職人も在籍!**

単色、グラデーション、ツヤあり、  
ツヤなしなど、どんな色でも塗装可能。  
色数が増えるごとに料金が高くなる。  
色数が増えつつも、手間は変わらないようマスクングで  
余計な色がかからないようマスクングが手間がかかるもので、  
保護するが、このマスクングも料金がアップ。  
複雑なマスクングも料金がアップ。



色は言葉で伝えられないので、  
なんでもいって見本をつけて  
もらうようにしている。

**我が社の  
自慢**

**工房で100万円以上する  
フレームを扱う**

BOTTECCHIA (ボッテキア)、CINELLI (チネリ) など、100万円以上もするフレームの塗装も行う。自転車の世界選手権で10連覇した伝説の競輪選手、中野浩一選手のフレームや故忌野清志郎さんの自転車も当社で塗装。盗難で一時話題になったあのフレームです。盗難にあったのもう1台追加でオーダーがあった。お礼にと後日サイン色紙が届き、「清志郎さんのファンだったので感激しました!」



「ミニ単位での指示がある場合もあれば、お任せでいい感じ」ってオーダーが多いです。



同じ色といっても、  
塗料の配合は職人の勘。  
白色も黄色がかった白もあれば、  
青色を加えた涼しげな白も。  
色合わせが一番、おずかしい  
工程です。

色の確認用にパイプに試し吹きをして  
何度もチェックする。

パイプは塗料が重なってどんどん太くなり  
まるで小さなサンドバッグのよう...

**すべて手作業で仕上げる  
自転車フレームの塗装**

ここ数年の自転車ブームで、数十万円もする超高級自転車を街で見かけることも多くなった。速くて小回りのきくクロスバイク、レース仕様のロードバイクなど、高級自転車を好む方はこだわりも強く、自分好みの色やデザインを求める人も少なくない。自転車塗装専門の上村塗装工業所に持ち込まれるものも、前述のような超高級自転車ばかり。

街乗りやロードサイクリング用として個人の方の自転車も扱うが、その割合は全体数の約5~10%程度。自転車ショップを通じて、または所有者から直接、「こんなデザインを描いてほしい」と細かく指示される方も増えている。同社の取り扱う大半が、競輪選手が乗るレース用自転車。レース用フレームは既製品ではなく、フレームビルダーと呼ばれる職人が選手の体形や要望にあわせフレームをオーダーメイドで製作する。そのフレームビルダーから、色使いや文字やマークのデザイン、位置などが指定された注文が入る。

塗装の基本的な流れは、フレームをさび止め液につけ乾燥、下処理用の薬剤を塗って表面を平らに整える。そのあと下塗り、中塗り、上塗り重ね発色を増す。1つのフレームは2、3日でできるものもあれば、1カ月かかるものも。ひとつひとつ、職人が手作業で行うからこそ、どんな要望にも応えられる。競輪選手、自転車愛好家にとってはなくてはならない存在だと言える。

**有限会社上村塗装工業所**

〒544-0031 大阪市生野区鶴橋5-20-15  
TEL 06-6731-5917 FAX 06-6718-3032  
<http://uemura-tosou.com/>

事業内容 / 自転車の塗装 (自転車塗装が漆塗りの頃から80年以上の経験と技術で1台、1台ハンドメイドで丁寧に仕上げています。)